

MESSAGE

本校の歴史と精神を 次の世代に受け継ぐために

本郷学園は本年、令和4年10月に創立100周年という大きな節目を迎えます。大正11年4月、この染井の地で開校された本校は、さまざまな困難に遭遇しながらも、「国家有為の人材を育成する」という建学の精神を受け継いで、個性を尊重した教育活動を展開してまいりました。卒業生は現在までに約28,000名を数え、その活躍の場は幅広く、多岐にわたっております。これもひとえに、皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

この度、100周年記念として、本校の揺籃期の面影を知る卒業生にお集まりいただき、昔と今を語り合う座談会を催しました。戦時下、そして戦後の混乱期と時代が大きく変わる中、「強健・厳正・勤勉」を貫いて苦難の時期を乗り越えていった先輩諸氏の想いが、本冊子を通じて次の世代に引き継がれていくことを願ってやみません。

また、本校の誇りである校歌を作詞された坪内逍遥先生のご令孫、坪内ミキ子氏にご協力いただき、校歌誕生の経緯や本校創立者の松平頼壽公とのつながりをたどりました。本校の歴史と精神をご理解いただくうえで、お役に立てればと期待しております。

本冊子の制作にあたって、ご協力くださった卒業生各位、関係各位に深く感謝の意を表します。

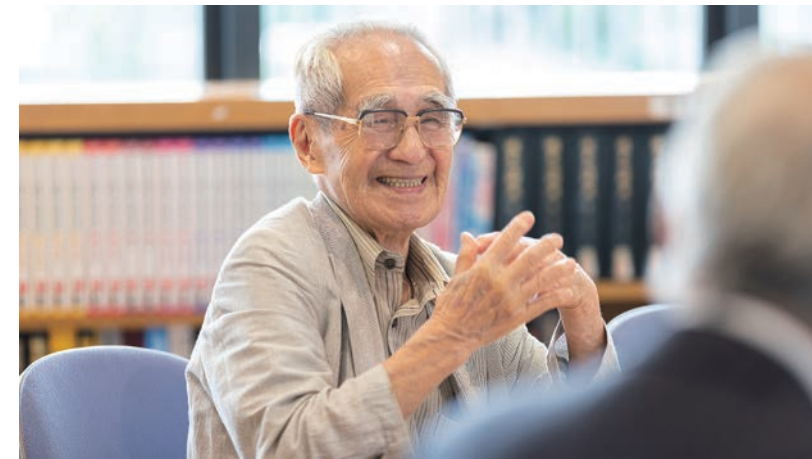


景山 正隆さん

昭和14(1939)年度卒業／第13回生

PROFILE

元東洋大学教授、義太夫協会名誉会長／大正11(1922)年生まれ。本郷中学校卒業後、府立高等学校文科乙類を経て東京帝国大学文学部国文学科入学。海軍入団のため休学後、同学(東京大学と改称)卒業。公立高等学校教諭、戸板女子短期大学、清泉女子大学教授を経て、東洋大学文学部国文学科教授。公職として文化財保護審議会専門委員、文化庁芸術祭審査員、文部省芸術選奨選考審査委員、日本芸術文化振興基金専門委員、文化庁インターンシップ研修員選考委員、新内協会顧問、義太夫協会会長、国立劇場文楽評定委員を歴任。歌舞伎・人形浄瑠璃・邦楽の研究に従事し、著書多数。平成5(1993)年、勲四等旭日小綬章を受章。2022年8月に急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



今里 隆さん

昭和19(1944)年度卒業／第18回生

PROFILE

建築家。元東京藝術大学客員教授／昭和3(1928)年生まれ。本郷中学校卒業後、東京美術学校(現東京藝術大学)建築科在学中から吉田五十八に師事し、卒業後は吉田五十八研究室に勤務。昭和39(1964)年杉山隆建築設計事務所創設。代表作に、国技館、歌舞伎座、総本山醍醐寺霊宝館、池上本願寺後廟所、南座、平山郁夫美術館、池坊本部ビル、大平正芳邸など。主な受賞に、東京建築賞特別賞、東京建築賞優秀賞、東京建築賞奨励賞、日本経済新聞新製品賞、建築業協会特別賞、きょうと景観賞、BELCA賞など。著書に「屋根の日本建築」(NHK出版)、「次世代に活かす日本建築」(市ヶ谷出版社)など。



宮本 良一さん

昭和17(1942)年度入学／第20回生

PROFILE

元千葉県立佐倉高等学校校長／昭和4(1929)年生まれ。本郷中学校、海軍甲種飛行予科練習生(予科練)を経て、東京教育大学(現筑波大学)農学部で植物育種学を専攻。卒業後は千葉県に奉職し、県立高等学校、県教育機関に勤務。県立佐倉高等学校校長をもって定年退職し、以降は国際ロータリークラブの会長や地区委員長を務め、タイ、フィリピンでの国際奉仕活動(井戸設置や Deng 熱撲滅)に携わる。平成29年6月1日、瑞宝小綬章を受章。



南谷 修さん(司会進行)

昭和30(1955)年度卒業／新制8回生

PROFILE

学校法人本郷学園同窓会会長、元鹿島建設代表取締役副社長／昭和13(1938)年生まれ。本郷中学校、高等学校を経て、日本大学工学部建築学科卒業。鹿島建設入社後、神奈川県共済農協平塚農協ビル所長、静岡市新庁舎新築所長、横浜支店取締役支店長、建築技術本部副社長兼本部長、代表取締役副社長などを歴任。



松平 頼武(名誉理事長)

PROFILE

高松松平家第14代当主。早稲田大学第一理工学部卒業後、東京芝浦電気株式会社入社後、本郷学園理事、本郷学園理事長、本郷中学校・高等学校校長を歴任。令和元(2019)年より本郷学園名誉理事長に就任。昭和13(1938)年生まれ。他要職は公益財団法人松平公益会会長、公益社団法人香川県教育会会長、高松市文化芸術財団会長、ボーイスカウト日本連盟顧問、ボーイスカウト日本連盟国際コミッショナー、ボーイスカウト日本連盟副理事長、少林寺拳法全日本学生会長など要職を歴任。平成22(2010)年旭日小綬章受章、平成24(2012)年ボーイスカウト世界連盟ブロンズ・ウルフ章、平成25(2013)年香川県文化功労章を受章。



松平 頼昌(第四代理事長)

PROFILE

学校法人本郷学園理事長、もみじ幼稚園副園長、ボーイスカウト日本連盟理事並びに国際コミッショナー、香川県教育会会長／昭和41(1966)年生まれ。上智大学大学院理工学化学専攻修了後、昭和シェル石油株式会社入社。本郷学園理事、常務理事を経て、令和元(2019)年理事長に就任。

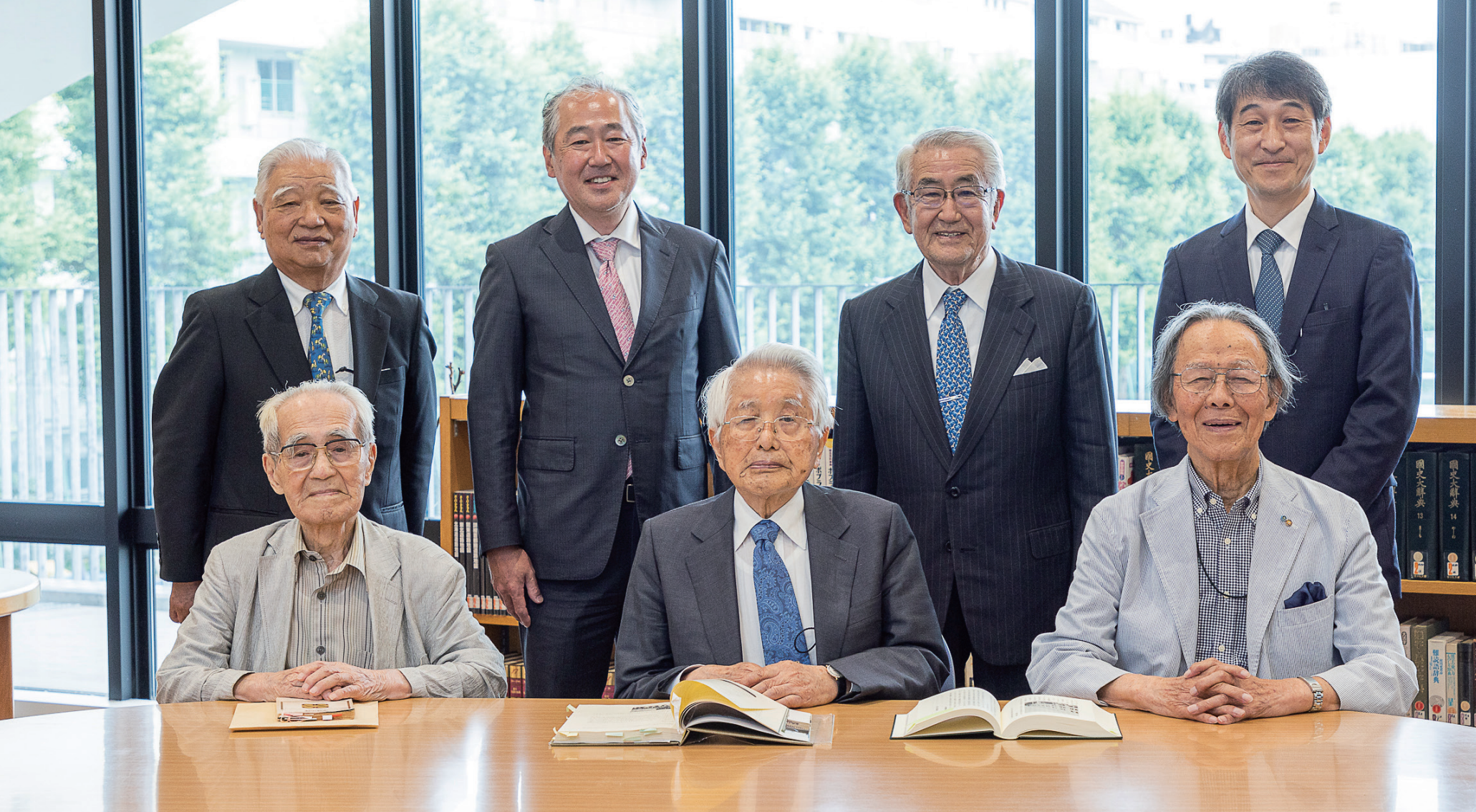


佐久間 昭浩(第九代校長)

PROFILE

本郷中学校・高等学校校長／昭和40(1965)年生まれ。上智大学文学部卒業後、本郷中学校・高等学校英語科教諭として着任。教科主任、学年主任、入試広報部長、中学校教頭を歴任。平成28(2016)年本郷中学校・高等学校校長に就任。





2号館図書館にて

〈特別企画〉Part.1
卒業生座談会

百年の時を経て卒業生と語り合う 本郷の今と昔

本郷の生徒は昔から
非常にリベラルだった

南谷 司会を務めさせていただきます南谷です。本日は本郷学園創立100周年を記念いたしまして、創立当初、戦前戦中戦後を知っておられる卒業生の皆さんにお集まりいただきました。開校早々の関東大震災、昭和初期の経済危機、戦前戦中戦後の混乱と、創立時から本郷には幾多の困難の時期がありましたが、その時々の方々の気概と協力、そして松平家四代にわたる決断によって今日があるのだと存じております。本日は大先輩の皆さんの思い出をお聞かせいただき、本郷の絆を探り、次の100年に引き継いで参りたいと考えております。では、初めに松平頼武名誉理事長からひと言伺いたいと存じます。
松平頼武名誉理事長(以下、名誉理事長) 今年、本郷学園は創立100周年の記念すべき年を迎えました。大正11(1922)年10月27日、

学校設立の申請を文部大臣に提出しまして、第一期生を迎えた入学式を翌年4月に挙行しました。それぞれの時代を支えてくださった教職員、先輩諸兄、在校生とご家族、そして地域や他校、さまざまな企業の皆さまに感謝とお礼を申し上げるための節目であると捉えて、この100周年を迎えたいと思っております。大震災や戦争があり、戦後の教育改革、最近ではコロナ禍によってオンライン授業への移行など、大変目まぐるしい変遷があったと考えておりますが、南谷さんのお話の通り、皆さまのご協力によって乗り越えられたと感謝しているところでございます。本日は大先輩方から当時の話をたくさん伺いたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いたします。
南谷 では、今日本郷に来られて、校舎も生徒も随分変わったと思いますが、その印象からお話いただけますか。景山さんは数年前まで、夏休みに本郷の生徒に戦争の話をしていただいていたから、卒業後も度々

来られていたと思いますが、学校の印象はいかがでしょう。
景山 私は戦災で焼ける前の校舎で学びましたが、今とはだいぶ違いますね。正面にコンクリートの校舎があって、2階建ての木造校舎、剣道場と柔道場、園芸場、グラウンドと並行してかなり広い畑もありました。グラウンドは100メートルの直進コースをとっても余裕があるくらい大きくて、奥に鉄棒がありましてね、私は背が低いものですから飛び付けなくて随分困った思い出があります(笑)。
今里 今日久しぶりに来たら、染井通りから入るところの銀杏並木が半分になってしまった気がして。建物もたくさんできましたし、すっかり変わってしまいましたね。
名誉理事長 新しい建物を建てる時、正門から入って両側にある銀杏の木を残しながら多少切らざるを得ませんでした。銀杏の木の下にあった卒業年を記した石は運動場へ移動しました。
南谷 私たちの時は落ち葉を清掃するのが

大変でした(笑)。
宮本 私が1年生の時の写真を持ってきました。昔、園芸場の外に原っぱがあって、そこで撮ったものです。僕の1学年上の先輩からカーキ色、軍隊色の制服で戦闘帽になってしまったのが嫌でね。上級生は黒の詰襟だったのに(苦笑)。それと、玉藻寮が校舎の隣にありましたね。高松の玉藻城から名前を取った。
名誉理事長 香川県出身の大学生学生寮ですね。戦争で焼けてしまいました。今はもみじ幼稚園(昭和29(1954)年開園)になっています。
宮本 案外、そういうことは忘れないものなんですね。木造校舎も贅沢でしたよ。建物の横から入って、階段を回るようにして2階に上がる。ヨーロッパの建築みたいで。
景山 2階に手すりがあって階段が見えるんですね。お昼にお湯を取りに行くんですが、上からやかんでお湯をかけたり、イタズラしたことがあります(笑)。

宮本 生徒の印象で言えば、私の娘の知り合いが、本郷の生徒について「非常にスマートですね」と言っていたんです。山手線の駅で見かけたのだと思いますが、それを聞いて「やった」と思いましたね。
佐久間校長 とても奇遇と言いますか、名誉理事長が校訓に準ずる新たな目標を作られまして、それが「本郷生はスマートであれ!紳士であれ!」というものなんです。
宮本 そうですか。生徒が実践してくれているんでしょうね。本郷は昔から非常にリベラルだったと思います。本郷は上級生が下級生を絶対いじめなかった。それこそスマートで、僕らも黙って見習っていましたよ。
景山 いじめはなかったですね。ただ、上級生に校外で会った時は、敬礼だけはしなければならなかったから、駒込駅を降りて学校に来るまでのあいだは敬礼しっぱなしでね(笑)。

松平頼壽先生の姿を見かけると
何かホッとした

佐久間校長 私は本郷に来て33年経ちましたが、初めて本郷でお世話になった時、なんて自由で、生徒も教員も生き生きとした学校なんだろうと思い、働けることが非常にうれしかったんです。皆さんが通われていた時の本郷は、どんな学校でしたか?
景山 私は府立の中学校の受験で失敗して本郷に入学したのですが、1年生で5クラス250人いた生徒が2年生になると4クラス200人に減ってしまうんです。成績の悪い50人が退学しちゃうんですね。それで「随分厳しいな……」と痛感しまして、しっかり勉強しなきゃいけないと思った記憶があります。
今里 私は自宅がすぐそばで、大和郷幼稚園、昭和小学校に通学する毎日、染井通りを

通っていましたから、白いカバンを斜めにかけている生徒の姿がカッコよくて入学したんですが、ビックリしたのは運動場が東京一広かったこと。永井体育館、武道場が完備され、他校にはない園芸科があり、収穫期は楽しかったですね。
宮本 私は叔父が本郷の3回生というご縁がありまして。小学校の友人のお兄さんも本郷に通っていたので、私が入学した時に金ボタンをくれたんです。また、自宅のそばに住んでいた軍事教練の教官が「本中に入ったら?」と薦めてくれたりして。僕らの頃の中学受験は二期制度で、一期は公立と名門校の私立で、本郷も一期でした。当時の東京にはナンバーズクールが「25中」までありましたが、あの頃の府立の中学校には体育館もない。本郷はすべてを完備していた。子どもの頃はわからなかったけど、大人になって教育現場に立ってみると、初代の松平頼壽先生が私財を抛ってつくられた立派な学校だったのだと思いました。
南谷 創設者の松平頼壽先生や第二代校長の徳川宗敬先生、初代教頭の永井道明先生のエピソードもお聞かせいただけますか。
景山 松平頼壽先生は、普段はお目にかかることはありませんでしたが、式典の時にはそのお姿を拝見していました。永井先生の思い出は、私が喘息の発作で学校を休んでいた2年生の頃、久しぶりに学校に来てグラウンドを歩いていたら、「おい、景山!」と声が聞こえて。振り返ったら永井先生でビックリしました。「喘息はもういいのか?」と。教頭先生ですから個人的に話した記憶はない。思い当たるのは、修学旅行で箱根に行った際、同級生と二人で喘息の発作を起こして医者に注射を打ってもらった時に永井先生がいらして、それを憶えてくださっていたんでしょうね。



左から景山正隆さん、今里隆さん、宮本良一さん。手前は南谷修さん

南谷 今里さんはいかがですか。校長が徳川宗敬先生に代わる時に在学していたと伺っています。

今里 それが、大変残念ですが、混乱期だったせいかよく覚えてないんです。ただ、三木末武先生は憶えていますね。当時はまだお若くて、女性にモテてね(笑)。大きな声で話していると、自分で感激してしまう。そういう授業が面白かったですよ。

南谷 美術の先生は？

今里 服部季彦先生ですね。

宮本 服部先生は確か、理事として学校運営にも関わられていて、パリに留学していた話をよく聞きました。三木先生も素晴らしい先生でした。英語の授業でルーサー・パーバンクというアメリカの園芸家の話をしてくれて。僕は花や水生植物を見たり、園芸が好きでしたから、本郷の園芸の授業で他の学校では経験できないような感性を育めたと思っています。ほとんどの生徒は嫌がっていましたがね(笑)。徳川先生については、私は昭和19(1944)年に海軍に行ったので、縁が切れてしまった。

南谷 私たちの時代は「徳川先生は大殿と呼べ、松平先生は殿と呼べ」と、用務員の方から教わりました(笑)。「今日は大殿がいっちゃっているから走ってはならん!」なんてね。

宮本 そういえば、僕の頃は松平邸に能楽堂

があって、その隣に玉砂利を敷いたお屋敷に続くスペースがありまして。松平頼壽先生がクライスラーか何かで帰って来られるところを見かけると、何だかホッとしましたね。

名誉理事長 染井能舞台ですね。もともとは明治8(1875)年に旧加賀藩主の前田齊泰公のお屋敷に建てられた根岸能舞台で、大正8(1919)年に頼壽公が譲り受けて染井の地に移築したものです。戦争でも焼け残ったのですが老朽化が激しくなり、解体した部材を横浜市に寄贈して、横浜能楽堂としてオープンしたのが平成8(1996)年です。そういう由来のある能楽堂で、現在働いておられる能楽師には本郷出身の方が随分いらっしゃいます。学校の帰りにそこで練習していたと。私がよくお目にかかるのは亀井忠雄先生です。人間国宝の方ですが、それこそ今里先生が手掛けられた国技館で大相撲があると、毎日のように見いらしています。

| 学徒動員で 授業が一つもなかったことが 今でも残念に思う

南谷 今の生徒たちは、学校で授業を受けて、放課後になるとクラブ活動をしたり塾に行ったりという日常ですが、皆さんはどんな学

校生活を送っておられましたか？

景山 部活動は主に運動部でしたね。文化部は書道部があって、私も所属していましたが、集まって何かをするってことはなかった。家で書いて、修身の指導もしていた木村宣雄先生が書道部の部長で見て下さいました。私が5年生の時、藤田東湖の「天地正大気」を真似て書いたものが展示されたのを覚えています。それから、休み時間はテニスボールでサッカーをやったり、木造校舎の板壁にボールをぶつけたりして遊んでいましたね。

宮本 僕の頃は部活動はほとんどなくて、ラッパ部のみ活動していました。

松平頼昌理事長(以下、理事長) 学校が終わった後、放課後はどんなことをしていたのですか？

景山 家がバラバラでしたからね。私の場合は、放課後に友達同士で付き合ったという記憶がありません。

宮本 あの頃は「補導連盟」があって、中学生や高等女子校の生徒も、学校以外でチャラしていると脅されたんです(笑)。だから学校と家の往復でしたね。ただ、市電で神保町に出て、本は漁っていました。新しい本が入ってこないから、神田の古本屋で探すんです。当時、英語の教科書は『Kanda's The King's Crown Readers』という王冠の絵が表紙に描かれたオーソドックスなテキストで、年度始めに購入するんですが、もっと古い本が欲しくなる。それで古本を神田に探しに行っていた。

景山 先生用の教科書もありましたね。神田へ行くと古本で売っているから、授業の時に教科書と一緒に開いたりして。

宮本 虎の巻だ(笑)。

南谷 戦前戦中を学校で過ごした今里さんはどうですか。

今里 私の場合は4年生の終わりから5年生の最後まで学徒動員で、ことに5年生は板橋の陸軍造兵廠で夜勤ばかりでしたから、授業が一つもなかったことが今でも非常に残念に思います。土掘に囲まれた中で高射砲の信管に火薬を詰める危険な作業を朝夜交代でやっけて、昭和20(1945)年3月の朝、夜勤から帰宅すると自分の家がない。爆弾にやられてすり鉢状の大穴が空いているのみで、母は防空壕の中の木材が支えとなって助かりましたが、弟が一人、その奥で土に埋まって

死亡しました。父は崩れた材木の中から助け出されました。隣近所は全滅した家がいづつかあり、悲愴な体験でしたね。

景山 その当時、私は海軍にいましたから、空襲の怖さを知らないんです。

宮本 私もそう。3年生で中途退学して海軍甲種飛行予科練習生として海軍に行きましたから、戦後帰ってきて、昭和20年の9月頃ですか、体育館で授業をやっていましたね。本館はすべて焼けてしまったけれど、その中で事務仕事をやっていたと思います。

南谷 今里さんは昭和20年の卒業ですが、式典はあったのですか？

今里 なかったんで、だいぶ後になってからお願ひしてね。一番新しい2号館で紅白の幕を張っていただいて、もう一人の同級生と一緒に、卒業証書を何十年振りにもらいました。名簿もアルバムもありませんでしたから。

景山 終戦直後のことと言えば、昭和22(1947)年、私が大学在籍中に旧校舎が復活して、職員室でいろんな先生にお会いした記憶があります。服部先生や野瀬田佳生先生もいらっちゃって。特に野瀬田先生は後に、沼津精華女子高等学校(現沼津中央高等学校)に移られるのですが、私が戸板女子短期大学で働いている時にその沼津精華女子高等学校を卒業した学生が来ましてね。私は野瀬田先生がその学校におられたのを知っていたから聞いてみると「担任だった」と。それでお手紙を差し上げて、沼津まで会いに行ったことがあります。

今里 歴史の先生ですね。鼻が高くて。

景山 私の担任だったんです。3年の時は上野直由先生、4・5年は数学の安藤忠吉先生で「アナグマ」なんて呼んでいた(笑)。

| 本郷だからこそ ジェントルマンシップに あふれた生活をしている

南谷 まだまだいろんなことを伺いたのですが、そろそろ時間が来てしまいました。最後に将来に向けて、後輩へひと言ずつお言葉をいただけますか。

景山 進学状況などを見ても、今の生徒の皆さんは意気盛んな印象を受けます。ですから安心して将来に向かって前進する学校だと期



卒業生の皆さんが持ち寄った写真を見ながら

待しています。

今里 後輩の皆さんにお伝えしたいことは、将来進学する大学では、先生方は何も教えてくれないということです。しかし、積極的に教えるを請うと丁寧にも導いてもらえます。これが大学でしょう。私が在籍していた美術学校は特に極端で、先生の仕事を盗み取ることが学びでした。人間がどこまで育つかは、良い先生につくかどうかが一番大事だと思います。その運をしっかりと掴んでほしいですね。

宮本 生徒の皆さんを見ていると、本郷だからこそジェントルマンシップにあふれた生活をしているのではないかと想像します。このまま自信を持って頑張ってもらいたい。それと私は毎

年、東大合格者のランキングをファイルしてしまっています。東大がすべてではありませんが、一つのものさしとして、本郷でも増えていくことを楽しみにしたいと思います。

理事長 本日は学校まで足をお運びいただきまして、本当にありがとうございました。これほどお元気な先輩がいらっしゃることをうれしく思いますと共に、非常に大変な学校生活を過ごされたお話を賜り、この100周年は100回の卒業生がいっしょからこそ、迎えることができるのだと痛感いたしました。10月30日の式典にも、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。

改めて本日はありがとうございました。(了)



左から佐久間昭浩校長、松平頼昌理事長、松平頼武名誉理事長



昭和18(1943)年11月、昼休みに本郷中学校園芸場そばの農場で撮影した集合写真(宮本良一さん提供)



軍事教練は大正14(1925)年4月より、中学校以上の学校の正課として行われていました。写真は戦時一色に染まった太平洋戦争時、富士裾野で実施された野外演習時のもの(同提供)



戦時下で本郷中学校の制服は黒の詰襟からカーキ色の国民服に準じたものとなり、戦闘帽が採用されました。宮本さんが中学1年生時の写真(同提供)



「野外教練中の永井教頭」



「爆撃で荒廃した校舎」